



平成 18 年度第 4 回三宅島磯根資源調査報告書

東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所

目的：

三宅島において、磯根漁業の産業重要種であるテングサ、サザエ、トサカノリ等の資源調査を行い、漁業者に情報を提供する。今回は東側 13 地点の水深 10m 以浅の調査を実施した。

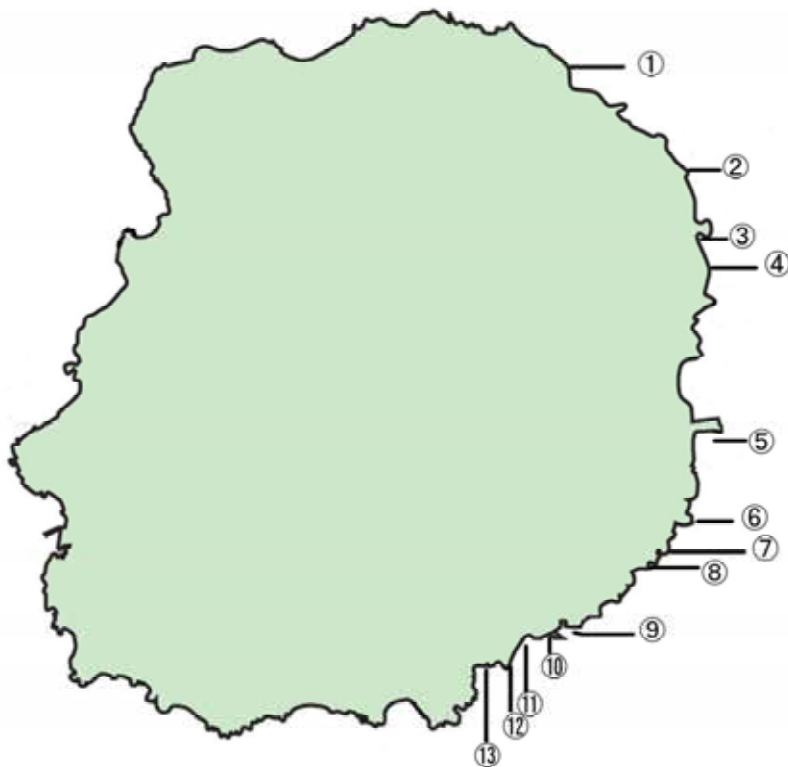
調査日：平成 18 年 6 月 19 日（月）～ 20 日（火）

備 船：第 10 金丸（船長：三宅島漁協沖山邦男組合長）

調査地点：図に示した三宅島東側の 13 地点であるが、調査した水深は 10 m 以浅とした。

調査項目：

オオブサ、マクサの 0.5 m² 枠取り調査（1 × 0.5 m 枠）によって着生量を把握し、調査地点毎に作柄評価を行った。評価基準は A 級（着生量 1,000g 以上/m²）、B 級（着生量 500g 以上 1,000g 未満/m²）、C 級（着生量 50g 以上 500g 未満）、D 級（着生量 50g 未満）とした。また、枠取りでサンプリングした藻体 10 本の藻長を計測し、平均値を算出した。フクトコブシとアントクメは目視観察により資源量を推測した。



第 4 回三宅島磯根資源調査地点

表 1 . 調査結果（漁場評価）

調査地点	オオブサ			マクサ			その他
	漁場評価	1m ² 当たりの着生量 (g)	平均藻長 (mm)	漁場評価	1m ² 当たりの着生量 (g)	平均藻長 (mm)	
オオネ	B	856	227	C	418	82	
アカバッキョ				D			アントクメ多い
シンハナ南側	C	279	125	D			
ヨリダイガハマ				D			
アラキ				D			トコブシ多い
ベンケ根				D			アントクメ多い
ズナゴ	C	404	150	D			アントクメ多い
コーボー	A	1,371	158	C	107	112	アントクメ多い
ズングラネ	C			D			トコブシ、アントクメ多い
横根	C	385	148	D			トコブシ、アントクメ多い
ウラネ	C			D			
長太郎池				D			
コオラ				D			

オオブサ（アラメ）は、 のオオネではすでに漁獲された跡があったが、現在でも着生量は多く、藻長も長かった。他の調査地点では、 のコーボーで着生量が多かったが、他の場所ではいずれも着生量は少なかった。



オオネのオオブサ、藻体が非常に長かった。

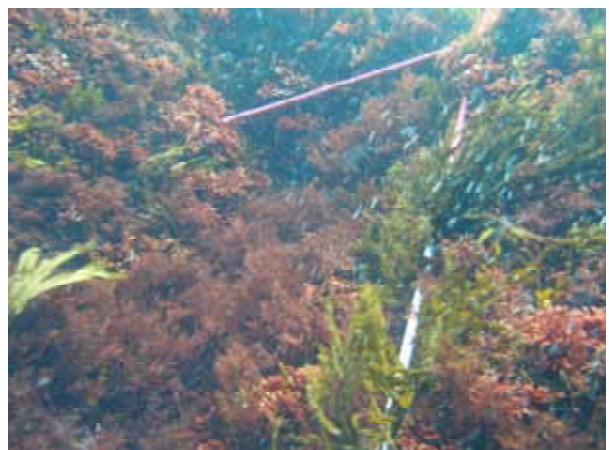


南東側ではコーボーが最も着生量が多かったが、藻長はオオネより短かった。



ズナゴ（左）、横根（右）のオオブサ、藻長は短く、着生量も少なかった。

マクサ（ケグサ）は、昨年まではほとんど着生が認められなかったが、今年になって水深 3 ~ 10m 付近でよく目につくようになった。しかし、着生量は少なく、漁場としては成立できないと考えられたが、今年になってマクサが急速に回復し始めたことは今後明るい材料である。



ベンケネ（左）とズナゴ（右）のマクサ、いずれも着生量は少なかった。

オバクサ（ドラクサ）は、今回調査したほとんどの漁場の水深 3 ~ 5m 付近で多くみられた。オバクサの方がマクサより急速に回復していた。

フクトコブシは今回調査した アラキや ズングラネ ~ 横根に至る坪田漁港周辺では、口開け直後であったが、多くみられた。

サザエは今年度調査した漁場では、コオラで 2 個体生息が確認されたが、他の調査地点では確認できなかった。昨年から今年にかけてのサザエ漁やエビ刺網漁による漁獲強度が大きかったことが示唆された。



コオラで確認された 2 個体、当所でサザエの生息が確認できたのはこの場所のみ。

トサカノリは今回の調査地点では着生量の多い場所は確認できなかった。

アントクメはサザエやフクトコブシの餌料として重要であるが、のアカバッキョとアラキからコオラまでの南東側一帯でまとまって着生しているのが認められた。特に、ベンケ根から横根までの間が最も着生量が多かった。



ズナゴ（左）、コーボ（右）、いずれも着生量が多かった。

調 査：東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所
安藤和人
滝尾健二
川辺勝俊（とりまとめ）
駒澤一朗
向山常比古
漁業調査指導船「やしお」小湊教行船長他乗組員 6 名